

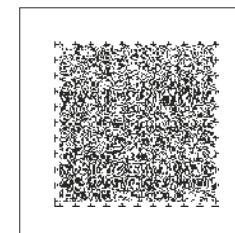
マンション、アパート等の
共同住宅で暮らしている人へ

マンション防災

東京都では、約900万人がマンション、アパート等の共同住宅（以下「マンション」という）に居住していると推計され、20階以上のタワーマンションも増加の一途をたどっています。そこで重要になってくるのが、マンションならではの防災です。

マンション等の共同住宅では、水道が供給されていても、排水管等の修理が終了していない場合、トイレ利用が不可

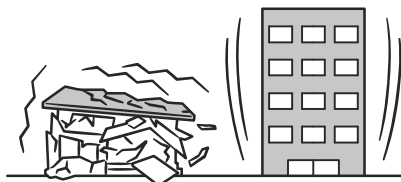
マンションの中高層階では、エレベーターの停止により地上との往復が困難となり、十分な備えがない場合、在宅避難が困難化



なぜ東京都ではマンション防災が重要なのか？ マンション防災を知ろう

被害が軽微であれば 在宅避難が可能に

タワーマンションは、この10年で約4割も増加しました。被災後、マンションに倒壊の危険がなく、被害が軽微であれば、在宅避難が可能となります。一方、建築後、相当の年数を経た高経年マンションも増加を続けています。これらは耐震性に問題がないかをしっかり確認する必要があります。



居住者が協力し合って 防災に取り組もう

マンションでは、いざ発災したら、各住戸での対応に加えて、管理組合等をはじめとしたマンション全体での防災が力を発揮します。そのため、自主防災組織等を設立して、備えておくことも有効です。マンションの強みと弱みを理解し、日頃から協力体制を築いておきましょう。



マンションの 「強み」と「弱み」を知っておこう！

【マンションの強み】

耐震性の高い構造

耐震基準を満たしたマンションは、建物に亀裂や破損が生じることはあっても、倒壊することはめったにありません。

共用スペースの活用

災害対策本部を設けたり、備蓄品を仮置きしたり。子供が集まる場所としても安心です。

お互いに助け合える

いざというときに相談し合い、まとまって行動すると大きな力になります。



【マンションの弱み】

エレベーターが使えるなくなる

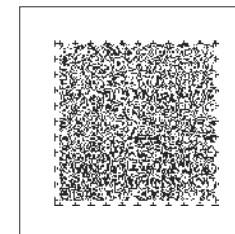
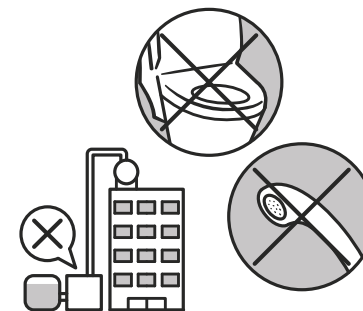
停電すると、エレベーターが動きません。場合によっては閉じ込められてしまうことも。高層階の居住者や障害がある人は移動が困難に。

トイレが使えるなくなる

排水管が損傷を受けていたら、トイレは使用できません。その状態で上の階でトイレを使用すると、下の階で汚水があふれ出てしまいます。

共用設備が使えるなくなる

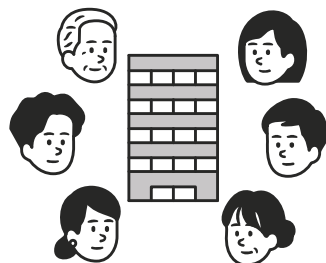
停電すると照明、機械式駐車場、入口のオートロックなど共用設備が使えなくなり、生活に影響が出ます。



マンション全体で備えておきたいこと

いざというときのルールを決めておこう

災害発生時に備えて、建物の設備確認をはじめ、エレベーターの応急復旧や排水管の確認手順、居住者への情報発信方法などについてルールを決めておくことが有効です。また、日頃から居住者間でのあいさつや声かけを通じて顔の見えるお付き合いをすることが、災害時にも共助の力を発揮することになります。



防災倉庫の 備蓄品・資器材は十分ですか？

飲料水や携帯トイレなどの重要な物は、管理組合等にも備蓄があるか確認を。備蓄品の置き場（防災倉庫）は1か所だけではなく、エレベーターが停止した場合に備えて複数階に設置しましょう。被災後の復旧のために必要な資器材も準備しておきましょう。

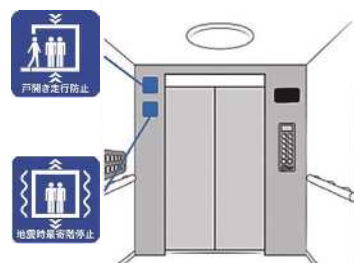
➡「東京防災」65 ページ



エレベーターの安全対策を確認しよう

エレベーターには、長時間閉じ込められた場合を想定して、防災キャビネットを設置し、水や食料品、携帯トイレなどを備蓄しましょう。なお、エレベーター内に、安全装置設置済みのブルーのマークが貼ってある場合もあります。

➡「東京防災」70 ページ



出典：一般社団法人建築性能基準推進協会
https://www.seinokyo.jp/evs/sm/

どこまでできている？

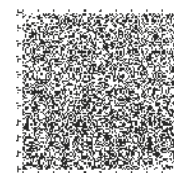
マンション防災チェックリスト

- ポスターなどで防災の呼びかけが十分に行われている
- 隣近所の人と、日頃から顔の見える付き合いができている
- いざというときの災害対応のスペースを決めている
- 管理組合等においても備蓄が十分にある
- 消火器・発電機・リヤカーなどの資器材が揃っている
- エレベーター停止に備え、防災倉庫は数階ごとに設置してある
- エレベーターに安全装置が設置してある
- 防災マニュアルを作成し、居住者が共有している
- 防災訓練を定期的実施している
- 自主防災組織を結成している
- 居住者名簿、要配慮者名簿を整備している

※できていないことがあれば、管理組合等に確認しましょう。



東京都防災アプリの「マンション防災」に詳細があります。
必ず確認しておきましょう。
➡ダウンロードのしかたは19ページ





マンションの特性を知り、冷静な対応を

マンションで被災したときは

何が起こるのか？

大地震の際、人や家具・家電が転倒し、収容物も散乱します。また、エレベーターが止まり、中に閉じ込められたり、高層階からの移動が困難となります。発災のそのとき、そしてその後の対応を頭に入れておきましょう。

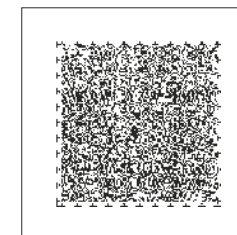


まずは自分と家族の身を守る

高層階では揺れが大きくなるので、家具の転倒や窓ガラスの破片などの落下物から身を守る行動をとりましょう。万一エレベーターの中に閉じ込められたら、インターホンで連絡をとり、救助を待ちます。

自分の無事を知らせ、隣近所の安否確認を

状況が落ち着いたら、安否確認カード等を玄関先に出して自分の無事を知らせます。同じフロアに高齢者や乳幼児など、支援を必要とする人がいる住戸には、ノックや声かけをして無事を確認しましょう。



部屋にとどまる？ それとも避難する？

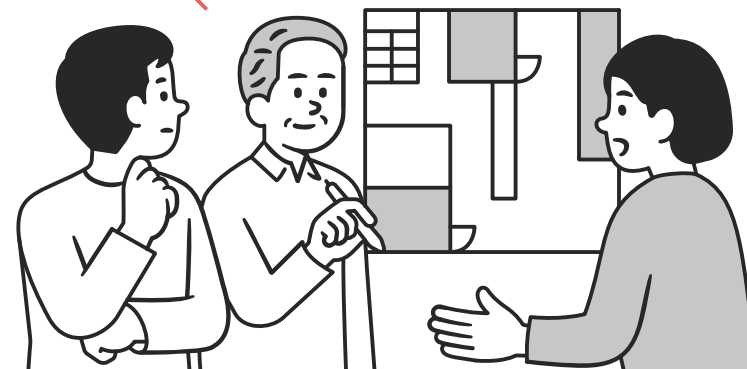
被害が軽微であれば、マンション内にとどまる在宅避難が可能となります。その後の暮らしが不安な場合は避難所等へ。また、マンション内の集会室等共用スペースに避難場所が作られる場合もあります。



在宅避難をする人は作業を分担して助け合おう

多くの方が暮らすマンションでは、みんなで協力すれば大きな力が生まれます。高層階への連絡や物資運搬、防犯見回りなど、居住者同士でできることを分担して助け合いましょう。必要な情報を伝え合い、最寄りの避難所とも連携し、マンションごとに配布される支援物資を取りに行くときは、マンション単位で行動します。

ゴミの集積場所、支援物資の仕分け場所など災害対応用スペースを作るとスムーズ



東京都防災アプリの「マンション防災」に詳細があります。必ず確認しておきましょう。
➡ ダウンロードのしかたは19ページ

